



かわさき

重点 自ら学び、高め合う子どもの育成

- ☆主体的な学び合いの充実
- ・「できる喜び・分かる楽しさ・頑張った達成感」を味わう授業
- ①課題設定と見通し ②意見交流 ③振り返り の工夫
- ☆児童の自治的活動の充実

<1月の主な行事予定>

- 1日（土）元旦
- 10日（月）成人の日
- 11日（火）後期後半授業再開
交通指導
- 12日（水）委員会活動
- 18日（火）なかよし班掃除
移動図書館
- 19日（水）読書ボランティア
- 20日（木）童男山ふすべ（5・6年生参加）
4年・6年オンライン学習 15:30
- 21日（金）寺子屋
- 25日（火）給食記念集会（朝活）
- 26日（水）消費者教育出前講座5年
- 27日（木）なわとび記録会
- 28日（金）なかよし班遊び 寺子屋
- 31日（月）3年・5年オンライン学習 15:30

今年を振り返って

今年も「あっという間」に1年が過ぎようとしています。歳を重ねると1年が早く感じられるというのは、よく聞く話ですが、まさにここ数年実感しています。

残すところ数日となりましたが、皆様にとってどんな1年だったでしょうか。年末になると様々なイベントやそれに関する話題がニュースに流れます。紅白出場歌手発表や箱根駅伝関係、流行語大賞、また今年の漢字等々……。

そんな中から、1年の世相を一字で表す「今年の漢字」が12月13日に「金」に決まったことが発表されました。「金」が選ばれた理由としては、東京オリンピック・パラリンピックでの日本人選手による多数の「金」メダル獲得、そして大谷翔平選手が大リーグMVPを満票で受賞するなど、リアル二刀流でシーズンを通して活躍、さらに松山英樹選手の日本人初のマスターズ制覇、藤井聡太棋士の最年少四冠達成など、国内外でこれまで成し得なかった多くの「金」字塔が打ち立てられたこと。加えて飲食店への休業支援「金」・給付「金」、子育て世帯を対象とした臨時特別給付「金」の議論、新紙幣印刷開始や新500円硬貨流通など、お「金」にまつわる話も多く話題に上がったことも理由として挙げられています。昨年の「今年の漢字」は、世界中が新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けた一年だったということで「密」が選ばれ、その他の候補として「禍」「病」「変」「滅」などが挙がっていました。それに比べると「今年の漢字」は明るさを感じます。

確かに、今年は新型コロナウイルス感染者数は10月以降随分減って落ち着いていますが、今年1年をふり返ると、昨年同様、テレビのニュースやワイドショーでは新型コロナウイルス関連の報道がない日はなかったように思います。学校でも、三密防止やマスク着用、手洗い、消毒等予防しながらの毎日でしたが、子どもたちは、勉強だけでなくその他の活動にも一生懸命頑張りました。そんな子どもたちに「金」メダルをあげたいと思います。

大きな事故や怪我なく令和3年を終えようとしておりますのも、保護者の皆様、地域の皆様のあたたかいご支援・ご協力のおかげであると深く感謝しております。また、19日に行われた資源回収にご協力いただき重ねてお礼申し上げます。

来年は、新型コロナウイルス感染症発生前の日常生活に戻ることができればいいなあと思います。令和4年が、子どもたち、そして全ての人々にとってよい年になることを祈っております。引き続き保護者の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

校内持久走記録会

12月9日、校内持久走記録会を実施しました。走ることが得意な子、苦手な子など様々ですが、どの子も最後まであきらめずに走りとおすことができました。また、自己記録を更新する走りを見せてくれました。当日はたくさんの保護者の応援をいただき、子どもたちの励みになりました。ありがとうございました。粘り強く何事にも精一杯取り組む子どもに育っています。



児童生徒の自殺増加に伴うお願い

12月4日から10日まで「人権週間」でした。そこで、12月1日の全校朝会では「人権」についての話をしました。人権とは「みんなが幸せに生きる権利」であること、つまり、「命を大切にすること」であり、この大切な命は「自分の命だけではなく、他の人の命も大切にすること」だと。そして、この命を大切にしない行為として、たたく、殴る、蹴るなどの体に与える暴力と心に与える言葉の暴力があることを話しました。特に、言葉について話を続け、やさしい気持ちであれば「やさしい言葉になる」、やさしい言葉をかけられると「やさしい言葉をかけられた人もやさしくなる」と。言葉によって命が元気になったり、命がしぼんだりする。だから「言葉は命」だよ。言葉を大切にしよう！と話をしました。



令和2年においては、自殺者全体の総数は前年から912人増加して21,081人だったそうです。児童生徒の自殺者数は499人で、前年（399人）と比較して大きく増加し、そのうち、女子中高生の自殺者数は209人で、前年（127人）と比較して約1.7倍となっています。

さらに令和3年における児童生徒の自殺者数も、1月から10月までの期間で368人と極めて憂慮すべき状況が続いております。また、18歳以下の自殺は、学校の長期休業明けにかけて増加する傾向があります。子どもの身近にいる私たち教職員、また保護者は「命の危機」を救うことができる立場にあります。子どもの発している「SOS」のサインを敏感にキャッチし、子どもに寄り添いながら、悩みを解消してあげなければならないと思います。明日から冬休みに入りますので子どもたちの見守りをお願いします。